

ていると感じます。

鈴木 質問をするにも根拠を調べておかないと言えないですからね。

小玉 分からないことを単に聞くという質問と、課題に気付き対応策を引き出す質問とは全く質が違ってきます。経験を積むと戦略的な質問に取組むようになり、それには更に調査や事前準備が必要でますます時間を費やすことになりました。

進藤 一般質問の準備にかける時間も初めと今ではかなり違ってきます。時には北海道議会議員から情報得ることもあります。書類を読むだけでは分からないので、いろいろな人に聞いたり資料を集めたり、他の自治体の状況や成功事例などたくさん情報収集するようにしましたね。でも再質問、再々質問はまだ不十分なんです(笑)。

先輩議員さんに定例会が終わった後も次の定例会の質問のために情報収集しなければだめとも言われたこともあります。

白石 机上の情報だけでは本当の思いに到達しないですよ。議員も現



進藤議員



白石議員

地に足を運んで見て、聞いて、はじめて心から課題点を感じる必要がある。実際に動くことが必要になってくる。質問のテーマを決めても、論法をまとめるまで夜中や時には朝方近くまで取組むこともあります。

さらに議会(議員)活動の充実強化に向け何が必要ですか

白石 人数は11人から減らすことは考えられません。できれば1人増やして少し委員会活動を軽減したい気持ちもあります。現状の人数でも十分強化していくことはできると思います。しかし、ずっと11人とは思っていません。この先人口の減少が進んだ段階では人口とのバランスは考えなければならぬと思います。数が少ないとやはり掘り下げた活動は難しくなるでしょうね。

鈴木 これからの人口減少を考えると私は減らすことも視野にいれるべきだと思います。そして少ない人数で活性化させるには若い人を入れ、さ

らに、若年議員の報酬を上げることだと思えます。

進藤 行政区選出という考えがいまだ主流のなか、若者が手を挙げるのは現状として難しいのではないのでしょうか。行政区の枠を超えて出たい人が出るようになればいいと思います。それとやりがいですね。頑張れば自分も成長して評価もそれなりにしてもらえらる仕組みが必要だと思います。

小玉 若い人が出るには生業との兼ね合いも生まれてきます。会社勤めの方であれば、その給与額を議員報酬で保障されれば立候補するかどうかと少し別の話ですが、議員になっても生活が保障されれば確実に出すくはなりません。議員の間は会社を退職扱いとし、議員を辞めたら復職が可能になるような制度があるとうり出やすいでしょう。しかし、農業の場合の休職はなかなか難しいですよ。

鈴木 稲刈り時期に委員会等で忙しくても、近所の農家



が刈り取ってくれるなどの援助をしてくれればなんとかなるけれど、自分の場合は完全に止まってしまった。昔は議員の仕事は地域に利益を誘導することが主だったから、地域が議員を助けるという意識が強かったけれど、今はそういう時代でなくなりましたからね。

白石 働く人がより稼げて町に納める税金を増やすという政策視点も大切だと思います。新規就農も大切ですが、今頑張っている世代の背中を更に押す施策があると、若者はより町政に目を向けるでしょう。将来の町づくりに向け、どこに投資をするかという考えも町にはあって良いと思います。

5人の議員の話は多方面に及び、あつというまに過ぎた2時間でした。今回、主に議員になる前と現在のギャップ、自身の変化、その実情の中から議会がより充実した活動をしていくためにはというテーマをピックアップして紹介しました。

議会活動は「ここまでやったらOK」という上限がなく、経験することにより、目に見えない忙しさが増してくることが共通しているようです。

今後の議会を考察するうえで、このような議会の現状を町民に見える化することで初めて議員の定数や報酬を考察することができると感じました。